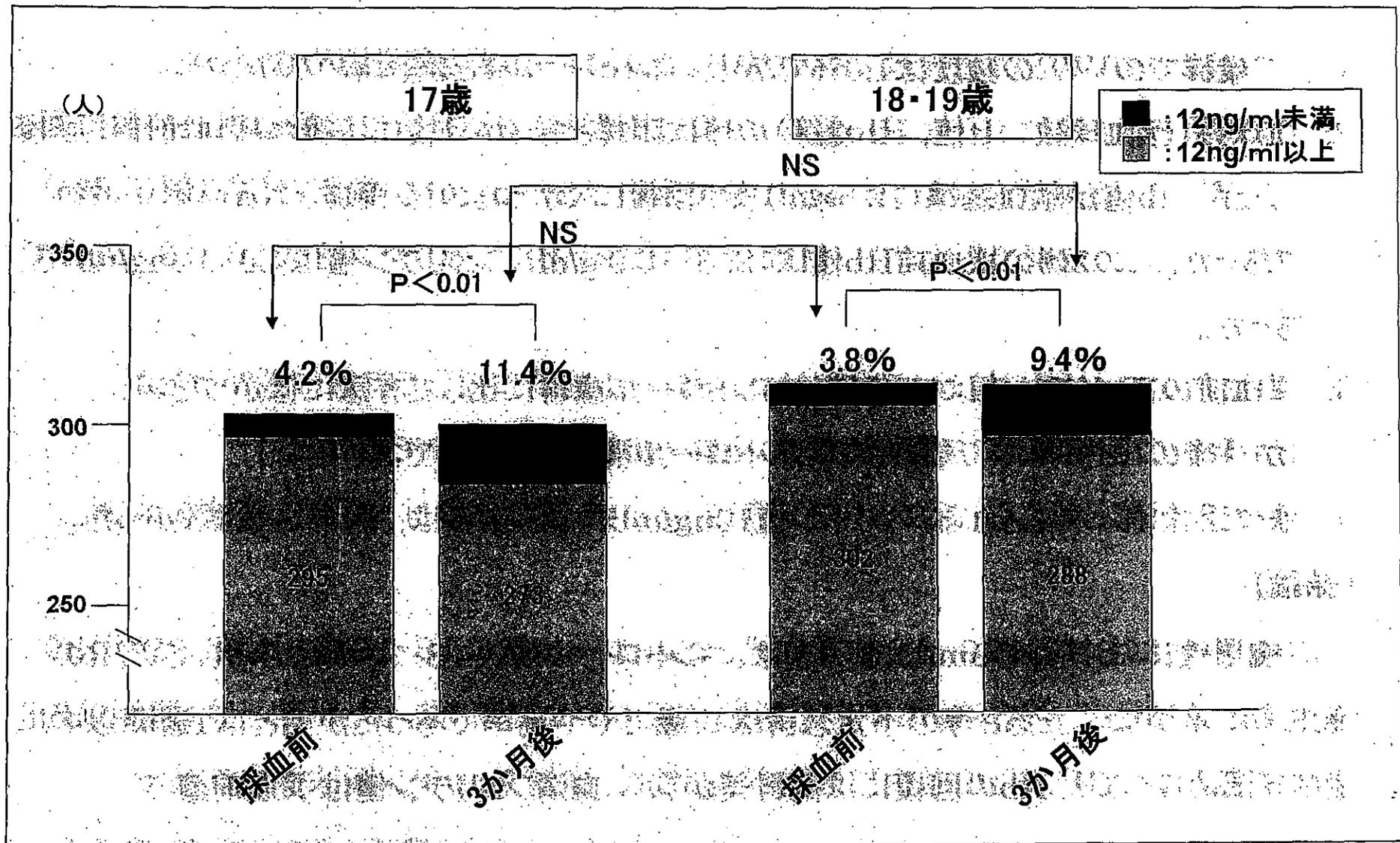


■ 17歳 (n=308)
 ■ 18・19歳 (n=318)

*有意差検定: Student t-test (有意差 < 0.05)



*有意差検定: 2x2 Chi square test and Fisher's test (p<0.05)

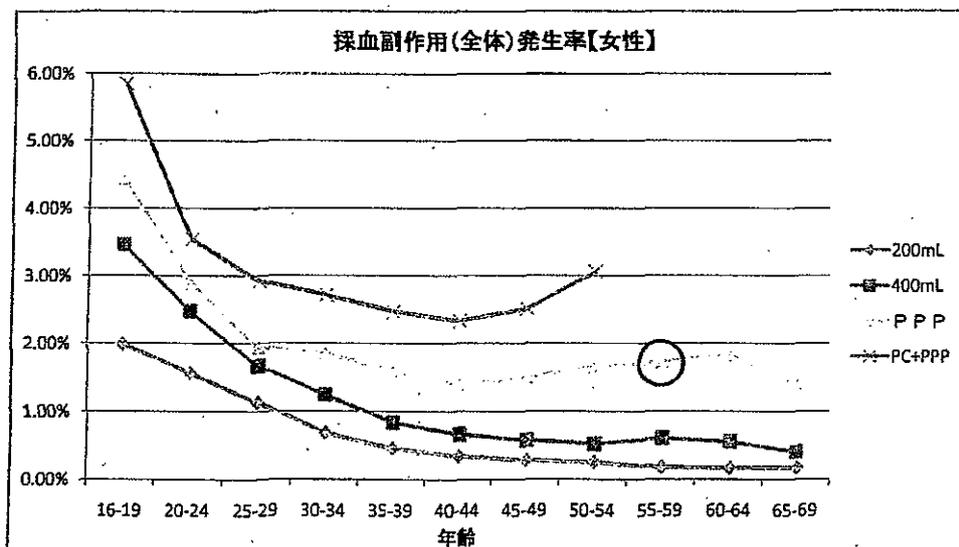
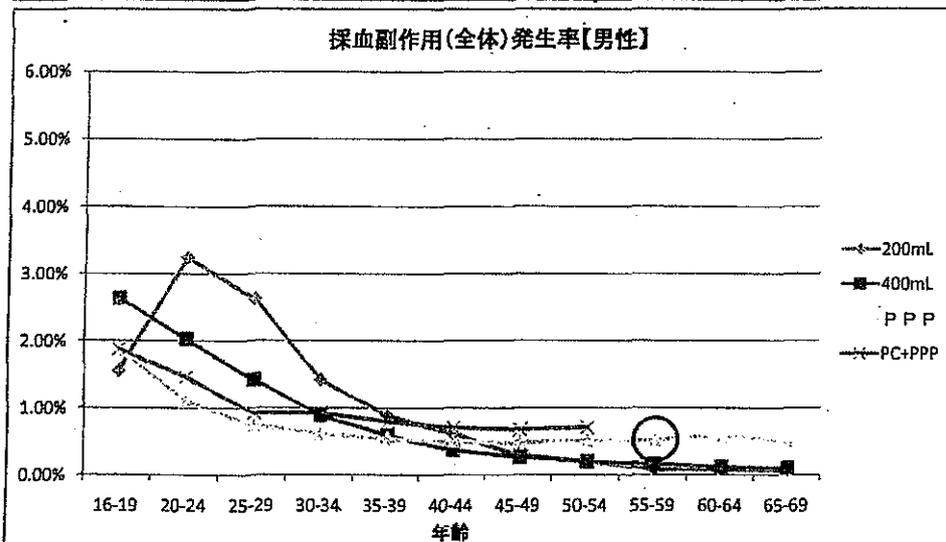
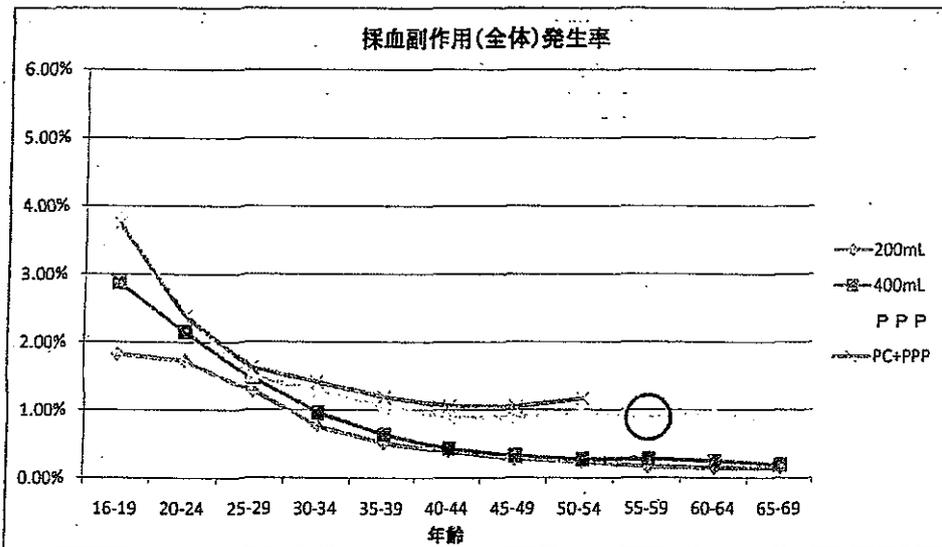
17歳男性の400ml全血採血(まとめ)

1. 17歳群でのVVRの頻度は1.6%であり、コントロール群と差を認めなかった。
2. 血球系(赤血球数, Ht値, Hb量等)の値は両群とも3か月後には概ね採血前値に回復したが、Hb値が献血基準(12.5g/dl)まで回復しなかったのは両群とも各1例(0.3%)であった。この2例の採血前Hb値は12.6, 12.9 g/dl、フェリチン値は4.0, 6.3ng/mlであった。
3. 採血前のフェリチン値は17歳群はコントロール歳群に比して有意に低かったが、3か月後の回復率は17歳群ではコントロール群より速やかであった。
4. 鉄欠乏状態と考えられるフェリチン値12ng/ml未満の比率は、両群に差はなかった。

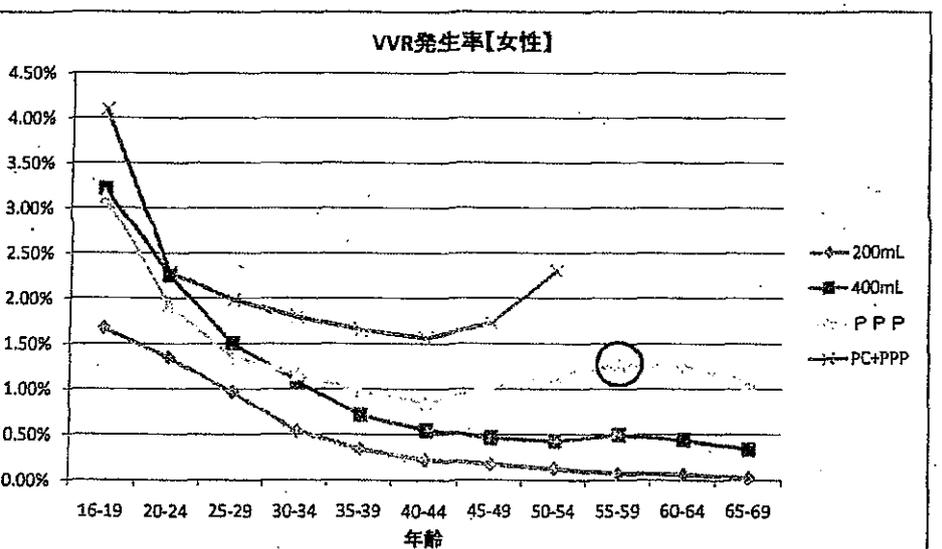
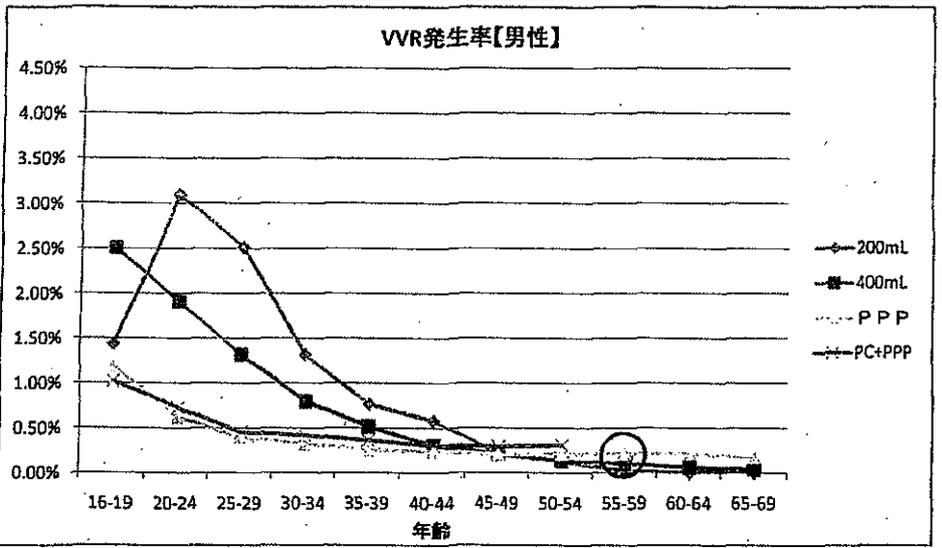
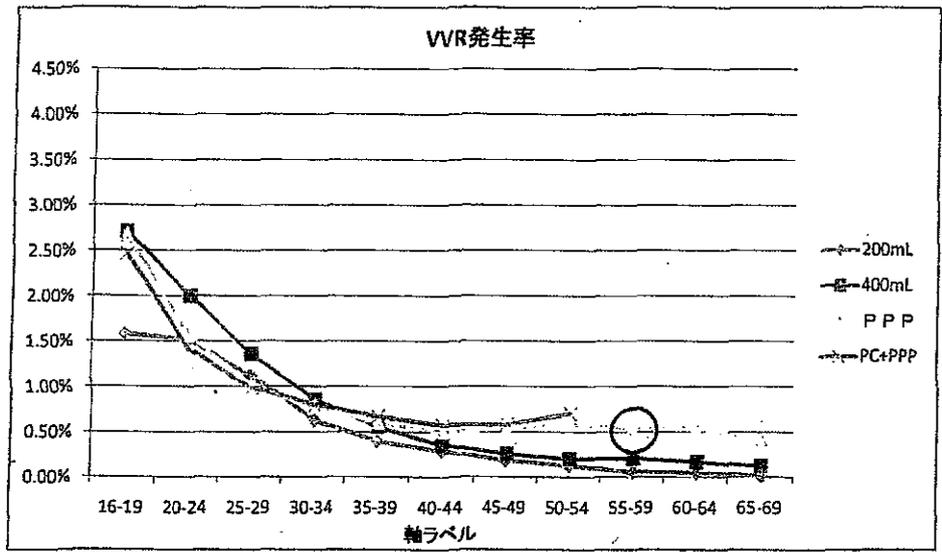
【結論】

17歳男性における400ml全血採血は、コントロール群の18・19歳と比較してVVRの発生率に差がなく、だるさ等の不定愁訴は17歳でやや高率であったが殆どは1週間以内に症状を認めなくなり、Hbの回復には両群差がなく、血清フェリチン値は採血前値でやや低い傾向は認めしたが、回復はより速やかであることから、安全に施行可能と考える。

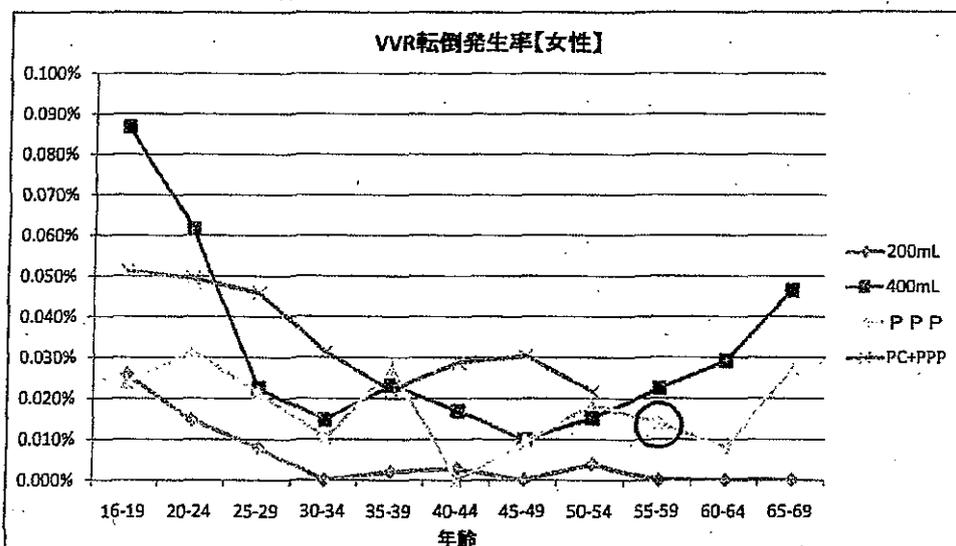
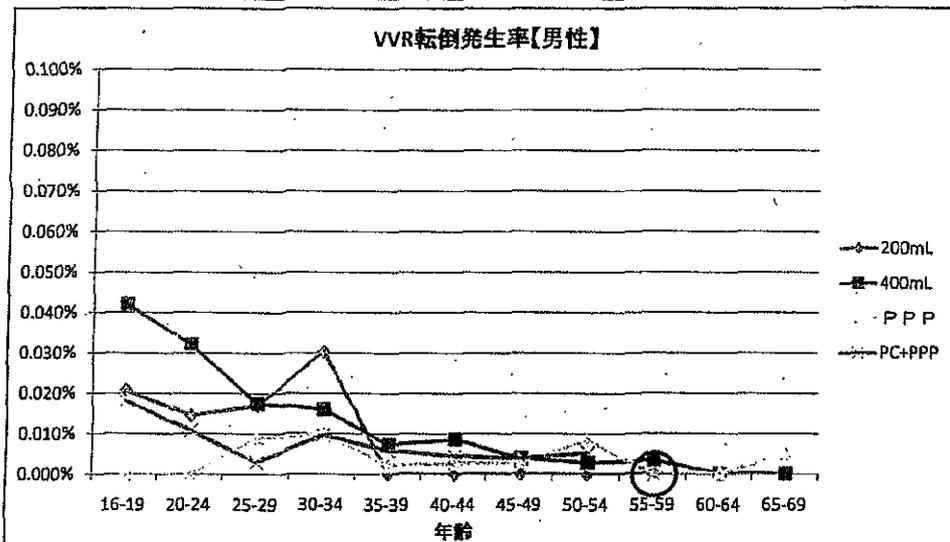
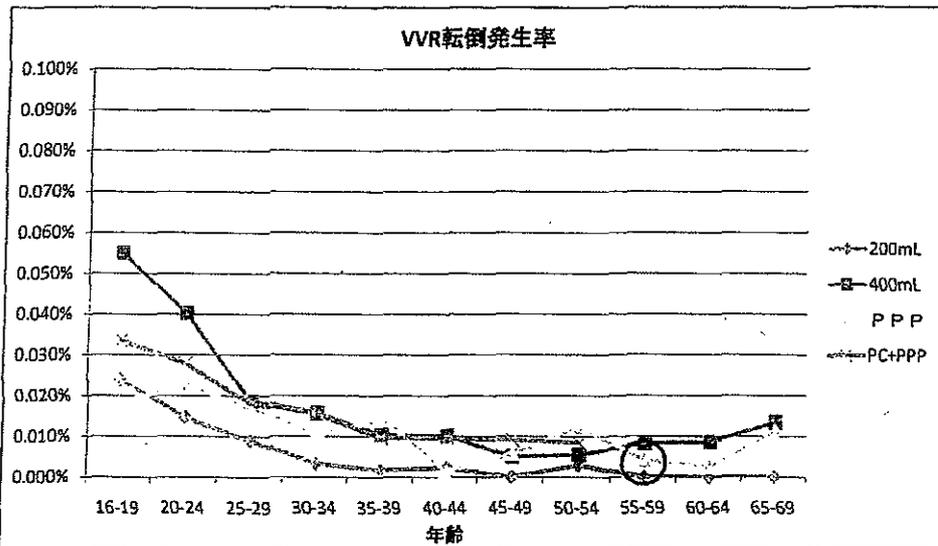
採血副作用発生率(年齢別・性別・採血種類別:平成19年度)



採血副作用発生率(年齢別・性別・採血種類別:平成19年度)



採血副作用発生率(年齢別・性別・採血種類別:平成19年度)

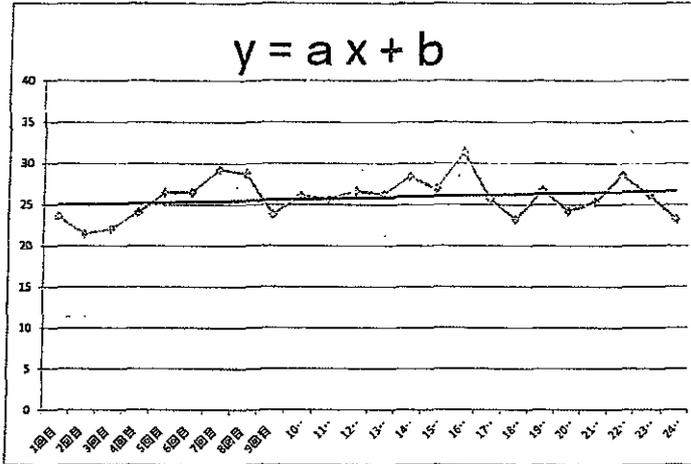


血小板数の推移

対象献血者 : 血小板献血を4年間で24回以上実施した献血者
 対象データ : 追跡開始から24回分のデータ(24回以上でも最初の24回分)

各対象献血者の24回分のデータから回帰直線を作成し、傾き(a)を求めた。

献血回数による血小板数の変化(全献血者)

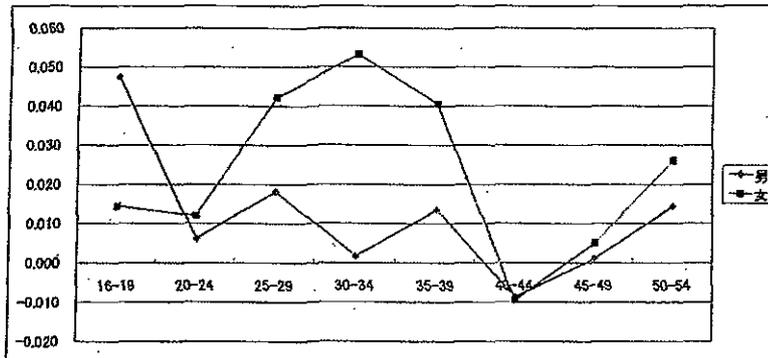


傾きaの加齢による変化

傾き(a)

	PT(計)	16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	
合計	n	2737	88	324	479	538	467	410	321	110
	平均	0.010	0.042	0.007	0.021	0.008	0.016	-0.009	0.001	0.018
	SD	0.102	0.121	0.101	0.099	0.106	0.102	0.096	0.105	0.085
男	n	2403	73	270	414	473	425	364	289	95
	平均	0.007	0.047	0.006	0.018	0.002	0.014	-0.009	0.001	0.014
	SD	0.101	0.117	0.104	0.096	0.102	0.101	0.093	0.106	0.083
女	n	334	15	54	65	65	42	46	32	15
	平均	0.027	0.014	0.012	0.042	0.053	0.041	-0.010	0.005	0.026
	SD	0.111	0.140	0.088	0.110	0.124	0.108	0.116	0.100	0.100

年齢	16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54
男	0.047	0.006	0.018	0.002	0.014	-0.009	0.001	0.014
女	0.014	0.012	0.042	0.053	0.041	-0.010	0.005	0.026



Hb値の推移

